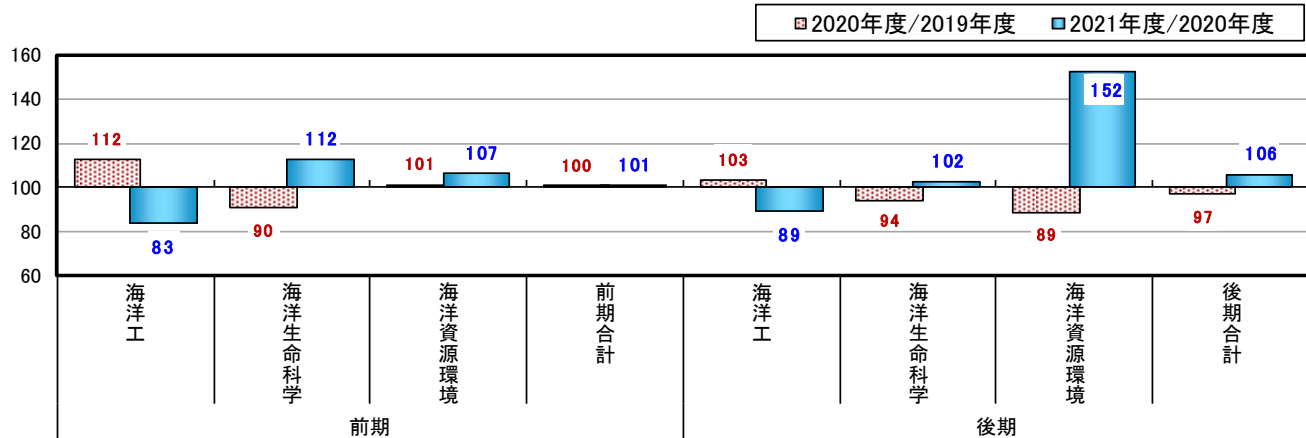


2021 年度入試状況分析【国公立大】

東京海洋大：大学全体では前期、後期ともに増加

前期：+5人 後期：+51人



入試変更点

選抜方法：海洋工…〈前〉〈後〉英語外部試験出願要件化
 海洋生命科学、海洋資源環境…〈前〉〈後〉英語外部試験の対象試験拡大
 募集人員：海洋生命科学(海洋生物資源)…〈前〉43人→45人
 (食品生産化学)…〈前〉33人→32人、〈後〉15人→14人
 (海洋政策文化)…〈前〉26人→22人
 海洋資源環境(海洋資源環境)…〈前〉39人→37人、〈後〉16人→14人
 個別試験：海洋工(海洋電子機械工)…〈前〉数→数+外、〈後〉理→理+外

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は5人(101)の微増だが2年連続増加、後期も51人(106)のやや増加で、2017年度以降、前年度の反動による増減が継続。英語外部試験利用の対象試験を拡大した海洋生命科学、海洋資源環境は、前期・後期ともに増加。一方で、英語外部試験を出願要件として新規実施した海洋工は、前期・後期ともに減少と対照的。

〈前期日程〉

- 海洋工(83)は、前年度増加の反動に加え、英語外部試験を新規に出願要件とした影響もあり大幅減少。学科別では、3学科のいずれも減少で、特に(流通情報工)(76)の大幅減少が目立った。個別試験に英語を追加した(海洋電子機械工)(91)は3年ぶりに減少。
- 海洋生命科学(112)は、2017年度の改組以降、翌年から3年連続減少だった反動で増加。学科別では、(海洋政策文化)(129)が、前年度30%以上の大幅減少の反動で大幅増加。募集人員(前年度募集人員対比指数85)の減少もあり、志願倍率は2.3倍→3.5倍へアップ。他の2学科である(海洋生物資源)(109)、(食品生産科学)(109)もいずれも増加。
- 海洋資源環境(107)は、増加で2年連続増加。学科別では、(海洋環境科学)(108)は2017年度の学部改組後初めての増加、募集人員(前年度募集人員対比指数95)の減少で、志願倍率も4.9倍→5.5倍へアップ。(環境資源エネルギー)(104)はやや増加で前年度の大幅増加に引続き2年連続増加。

〈後期日程〉

- 海洋工(89)は、2年連続増加の反動に加え、英語学部試験を新規に出願要件とした影響もあり減少。学科別では、(海事システム工)(136)は前年度半減を超える大幅減少の反動で大幅増加、一方で、(流通情報工)(62)は前年度大幅増加の反動で大幅減少と対照的。
- 海洋生命科学(102)は、前年度並。学科別では(食品生産科学)(124)、(海洋政策文化)(123)は大幅増加で、前年度の反動による増減が継続。一方で、(海洋生物資源)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 海洋資源環境(152)は、2017年度の学部改組以降、翌年から3年連続減少だった反動で大幅増加。学科別では、(海洋資源エネルギー)(184)が2年連続大幅増加、(海洋環境科学)(139)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、募集人員(前年度募集人員対比指数88)の減少で、志願倍率も7.2倍→11.4倍へアップ。